

授業づくり講座 英語

in 香南市立野市中学校

授業をアップデート!
生きて働く学びを創る!

東部管内の
講座情報



令和5年3月発行
東部教育事務所



第1学年 Unit7 Amazing Australia (Here We Go! ENGLISH COURSE 2)
話すこと【発表】ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

教材研究会 11月24日

<単元ゴール> 香南市貢献プロジェクト(KKP)～住み続けられる町についての自分の意見を知ってもらうために、テーマについての意見文などを読んで、考えたことを基に、聞き手の心を動かす発表をしよう～

…学校からの提案…

- <付けたい力>社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話す力。
- <生徒の実態>話すこと【発表】について1学期のパフォーマンステストでは目的に応じて内容を工夫したり、既習表現を活用しながら話すことができていた。使う表現が限定的なものもいるので、より豊かな表現をさせたい。読むことは調査等から、まとまりのある文章を読んで得られた情報を話したり書いたりすることに課題が見られた。
- <指導の工夫>「読む」際には読むポイントを明確にし読ませ、読んだことを基に「話す」際には、総合的な学習の時間に学習したことも活用しながら聞き手に伝わるような発表となるように生徒たちに考えさせたい。友達の意見や教科書の表現も参考にしながらよりよい発表とは何か考えさせたい。

協議より

<視点1> 単元ゴールに向かって、資質・能力を育成する単元構想となっているか

- 英語と総合的な学習を教科横断的に結び付け、生徒がより主体的に取り組めるように工夫されている。
- その際、話すこと【発表】ウの力を付けるというゴールに向けコミュニケーションにおける見方・考え方が働く課題設定になっているのか、実際の生徒の思考を思い描きながら確認してはどうか。
- 読むことにおいては、読む目的をより明確にする。
- 正確性を高めるために、発話を書いて確かめることも考えられる。

<視点2> めあてを達成するための手立てについて ①効果的な中間指導②「ICT」の効果的な活用方法

- (中間指導)どんな力をつけたいか明確に想定しておき、内容面と言語面から指導する。Thinking Time でそれぞれ独力で考える時間も必要ではないか。
- (ICT活用)生徒が自分の変容を実感できるように、単元を通して、毎時間ではなくても自分の発表をとりためておく。

講話 文部科学省 教科調査官 入之内 昌徳 氏

授業づくりで大切にしたいこと

- ☑Setting the goal of the Unit clear
- ☑Having the goals shared with the students
- ☑Enjoying communicating with your students
- ☑Creating a free and relaxed atmosphere in class
- ☑Realizing that making mistakes is a passport to a new discovery
- ☑Using English that is understandable to students
- ☑Having knowledge on second language acquisition
- ☑Using ICT to enrich the language activities

外国語教育における大切にしたい言語活動

- 「3つのもたせる」
- 活動に目的意識を持たせる
- 必然性をもたせる
- 知的好奇心をもたせる

授業づくりの際
チェックして
みてください



教材研究会からの変更点

- ・読む目的と聞き手を明確にした。
- ・英語でのコミュニケーションにおける見方・考え方が働かせるため、目標を「聞き手の心を動かす発表をする」から「聞き手に分かりやすく発表する」にした。
- ・ルーブリックの見直しを行った。
- ・発話内容の正確さを高めるために書く活動を取り入れた。



授業者 両部 得也 教諭

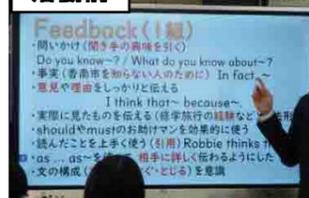
授業研究会 1月18日

<単元ゴール> 香南市貢献プロジェクト(KKP)～住み続けられる町についての自分の意見を知ってもらうために、テーマについての意見文などを読んで考えたことを、聞き手を意識して分かりやすく発表をしよう～

本時の展開

本時のめあて
住み続けられる町についての自分の意見や考えを知ってもらうために、「高速道路」についての意見文を読んで、考えたことを基に聞き手を意識して発表しよう。

活動前



前時の振り返りから、聞き手に自分の考えをよりよく伝えるための工夫を共有する



「読む」

生徒たちに、目的を示し意見文から書き手の一番言いたいことを掴ませる。



「話す」→全体共有

お互いに発表し合う。全体共有ではよりよく伝えるための工夫について友達や自身のパフォーマンスから考えさせる。



「話す」

今日学んだことをもとにそれぞれの発表を録画し、提出させる。生徒は録画は数回行い、一番よいものを選ぶことができる。



振り返り

ルーブリックを活用し、毎時間具体的に目標を立て、振り返りをする。

協議より

<視点> 目的・場面・状況に応じて生徒が思考・判断・表現していたか

- ・友人の意見を聞く中で、マッピングに追加するなど、考えを広げ、最後の録音時には自分の発表を仕上げている生徒もいた。
- ・課題設定を生徒にとってより伝えたい、わくわく、ドキドキのあるものにする。
- ・中間指導では言語面での指導があったが、内容面での指導があまりなく、生徒が変容しにくかったのではないかと。B評価以上に近づぐために教員やALTが手本を示すなど視覚支援も必要ではないか。
- ・目的・場面・状況が複雑で生徒が明確に捉えきれていなかったのではないかと。

授業をよりブラッシュアップ!

社会的な話題について

- ◇「読んで書く」において、読んだことについて考えをすぐ書くというのではなく、T-T, T-S interactionをし生徒からどんどん考えを引き出す場面をもつことが大切です。
- ◇理科や社会など他の教科の学びをつなげると、社会的な話題について、学んだことも想起しながら考えを持てます。

単元(本時)の目標について

- ◇複数のALTから意見文やビデオメッセージをもらっていたが、生徒たちが誰に、何を、何のために伝えるのか目的意識を明確にもてるようにするとよかったですのではないのでしょうか。
- ◇生徒がより主体的に課題解決に向かえるよう、言語活動の場面設定の工夫をすることが大切です。

Small Talkについて

- ◇どんどんやり取りを継続させていこうように指導することが大切です。
- ①教師がやり取りをしている場面を見せる
- ②使わせたい表現などを板書するなどして可視化し、全体で確認する。
- ③ペアを変えてもう一度やり取りする。